

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298600014		
法人名	株式会社 ユーアンドエヌ		
事業所名	グループホーム いきいきの家いすみ		
所在地	千葉県いすみ市岬町桑田2538		
自己評価作成日	平成26年2月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成26年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ、自然が豊富で静かな環境に「いきいきの家いすみ」はあります。建物はバリアフリーで、床暖房やスプリンクラーが設置しており、利用者様にとって、安心・安全で優しい造りになっています。リビングからウッドデッキに出る事ができ、中庭には広い芝生が敷かれており、建物の後ろには、畑があります。協力病院が、施設から200mと近く、2週間に1回の往診や週1回の訪問看護があります。また、利用者様の状態によっては、協力病院にてリハビリを実施し、健康で安心な日々を過ごして頂けるよう心掛けています。職員の年齢層も幅広く、経験も豊富な職員が多いです。近年は、平均年齢や要介護度も高くなってきましたが、その方にあったサービスやレクリエーションの提供を心がけ、「その人らしさ」を大切にしたいアットホームな生活の場の提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム いきいきの家 いすみ」は、平屋建てで広い敷地が確保されており、大きな庭や菜園は、気軽に外の空気を楽しめる場となっている。法人のグループ内には、老人保健施設・医療機関・グループホーム等、多数のサービスを有しており、必要時には、相談・連携をしながら、入居者及び家族のニーズに合わせた対応が可能となっている。施設内には、防災・レクリエーション・園芸・給食等の担当係が設置されており、担当職員を中心に話し合いを行いながら、入居者の生活が活性化するよう取り組みを工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関と事務所に掲示している。また、入職時に理念やモットーなどが明記してある手帳を配布し、常に意識してサービスの提供ができるようにしている。	「利用者の個性の尊重」「安心・安全な生活」「いきいきとした我が家づくり」を主眼とした施設理念を掲げている。理念を事業所内に掲示すると共に、研修等を通じて、職員への周知を図っている。また、職員の守るべき事項を記した職員手帳を配布しており、倫理・法令順守を徹底している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、近隣住民の参加をお願いしている。日々の散歩や買物の際には、挨拶を交わしたり、可能な方は、近隣施設や地域の祭事やコンサート、同グループの行事に参加をしている。	日常の挨拶や運営推進会議の参加等を通じて、地域住民とは良好な関係を築いている。また、地域行事に参加すると共に、施設行事にも地域住民が参加しており、交流を図っている。その他にも、グループ法人の他施設や地域の手施設との交流機会もあり、入居者の楽しみともなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や入居相談に来所されたご家族や利用者様の面会者、利用者様の外出・外泊時に支援の方法等を話している。また、自宅に退所となった方には、援助の方法を指導した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市との相談により、半年に1回以上のペースで開催している。ご家族や地域の方が参加しやすいように、市の協力を得て、(土)や(日)に開催している。また、資料の他に映像を交えて報告をし、多くの意見を頂いている。	地域区長・ボランティア団体代表・地域住民・市役所職員・法人内他施設職員・家族等を構成員として、年2回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行っており、施設の理解促進及びサービスの質の向上に繋げている。また、家族や地域住民の出席率向上のため、土日に会議を開催する等の工夫をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員とは、施設運営全般に関する相談やホームの現状報告のための訪問をしている。また、入所の問い合わせに関しての相談をしたり、施設のパンフレットを置かせて頂いている。	業務における相談や報告を随時行っていると共に、運営推進会議を活用する等し、市との連携を図っている。また、地域のグループホーム連絡会や介護サービス事業所連絡会に参加しており、市や地域他事業所と共同で問題解決に取り組む体制を構築している。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。必要に応じて、チャイムを使用している。千葉県の身体拘束廃止研修に参加、研修後は資料の閲覧をし、他の職員にも周知している。また、接遇を重視し、言葉による拘束がないよう努めている。	身体拘束排除における研修の参加やマニュアルの整備を通じて、職員への理解促進を行っている。困難事例があった場合には、会議等で身体拘束をしない支援方法を検討している。また、日中は玄関の施錠を行わず、入居者に自由な生活に配慮した支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県の虐待防止研修に参加し、研修後は報告書と資料の提出をし、他の職員にも周知できるように努めている。また、利用者様の変化の気づきを重視しており、虐待はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員が、千葉県の権利擁護に関する研修に参加をし、研修後は報告書の資料と報告書を提出し、他の職員にも周知させている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や入所相談の段階から、十分な説明をし、不明な点がないようにしている。また、契約時は、より細かく説明をし、入所に際し、不安や心配がないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の掲示や玄関に意見箱を設置している。ご家族様の面会時やケアプランの説明などの時にも、直接、意見や要望を確認している。	家族の訪問時・電話連絡時に直接意見や要望等を確認していると共に、運営推進会議への参加を通じて、意見の確認を行っている。挙げた意見・要望等においては、連絡ノートや会議を活用し、周知・検討の上、適切な改善に努めている。その他にも、職員・家族間でコミュニケーションを取りながら意見・要望の言いやすい関係作りにも配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接、社長に意見をだせるホットライン制度がある。また、提案制度があり、職員全員が意見を出せる機会がある。また、不定期ではあるが、管理者と職員の個人面談をし、意見の吸い上げを心掛けている。	定期的に会議を開催しており、職員からの意見・提案等を確認する機会を設けている。また、定期的に管理者と個別に面談を行うと共に、社長に直接意見を提出できるシステムが構築されており、様々な形で職員の意見を把握できるよう工夫している。	

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、本部会議があり、管理者が参加している。会議内での連絡事項は、すぐに職員に連絡をし周知させている。また、ホーム内では、カンファレンスや個人面談を通して、意見を出せる機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	千葉県社会福祉協議会やグループホーム連絡会、いすみ市介護サービス事業連絡協議会などの研修に必要なに応じて参加している。研修後は報告書の提出にて情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に加入し、適宜、勉強会に参加をしている。また、地域内の他施設への訪問や経営グループの他施設と会議などで意見や情報を交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	随時、施設見学を実施すると共に、お部屋が空いている場合は、体験入居も実施している。事前調査の段階から、ご本人やご家族の不安や疑問点を傾聴し、施設の雰囲気慣れ、馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談、自宅訪問、事前調査時に要望を傾聴し、不安な事や要望に関しては、事例を交え話をし、安心してサービスの導入ができるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や入所相談に来所された時に、ご家族の不安な事や困っている事、要望を傾聴し、必要な支援を見極めるように努め、必要に応じて、他の施設の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、食事の準備、洗濯物たたみ、掃除などの生活活動を共同で行っている。職員は、入居者様を人生の先輩と敬い、知恵や知識、思いやりを学ぶと共に、癒しを得ながら生活の支援を行っている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相談の段階から、要望を傾聴し、今後の支援の方法等を話し合っている。また、面会・外出・外泊も自由で、ご家族とのつながりを大切にし、何かあれば、電話連絡をしたり、面会時に状況の報告や相談をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中の面会は自由で、ご家族のほかにも昔の友人や隣家の方が来所される方もいる。また、ご家族の協力により、定期的に外食に出掛けたり、馴染みの理髪店に行かれる方、自宅へ外泊される方もいる。	日頃から、親戚・友人の訪問等は自由となっており、手紙のやり取りも可能となっており、馴染みの関係継続に配慮している。また、家族との外出・外泊も自由となっており、家族関係の継続に配慮している。その他にもグループ法人内・地域の他施設とも交流機会が設けられており、新たな関係作りの場となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の介護記録や様子から利用者様同士の関係性の把握に努め、場合によっては、リビングの席替えをしている。また日中は、隣のユニットに遊びに行く利用者様もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の協力病院へ入院継続により退所される方が多い。病院訪問時には、面会をし、看護師や相談員に状況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査の段階から、ご本人やご家族の意向や生活歴、状況を確認し、スムーズに共同生活が送れるようにし、入居後は、日々の生活の様子や記録、職員の気付きを通して情報を共有し、意向の把握に努めている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、医師や他サービス事業所からも情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。入居者の生活歴・身体状況を日々の記録と同じファイルに保管する等、入居者の現状を職員間で共有する工夫をしている。また、定期的に開催する会議や連絡ノートを活用し、情報の周知徹底を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントのセンター方式の一部を活用し、ご家族の協力を得て、生活歴の把握に努めている。また、ご家族や知人などの面会者からのお話しや入居後の会話の中からも情報を収集し、把握に努めている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やご家族、面会者からのお話から、利用者様の情報を得たり、毎日のバイタル測定や様子観察、また、個々に担当者を設け、現状の把握と日々の変化を見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、毎月のかフェレンスにて意見を交わし、ご本人やご家族の意向や要望、ADL・IADLの状況を踏まえた上で介護計画を立てている。	本人・家族の意向を基に、会議で検討しながら介護計画の作成を行っている。定期的に介護計画の評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。介護計画を日々の記録と同じファイルに保管し、全職員がいつでも介護計画を確認できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌や介護記録にて情報の共有をしている。介護計画は定期的に評価をし、変化があれば、その都度、支援の方法を検討し、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や買物など、可能な限り利用者様の希望に応じて実施するよう心掛けている。病院の協力を得て、必要に応じ、医療保険にてリハビリを行い、利用者様の運動機能の低下防止及び向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報やパンフレット、ポスターから情報を得て、公民館や近隣施設の催し物など、出来るだけ地域の中に出掛ける機会を設けている。また、定期的なボランティアの訪問を通し、地域の方と触れ合う機会もある。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が主治医の方は、2週間/1回の往診にて診察をし、お薬を頂いている。協力病院以外のかかりつけ医の受診も可能であり、眼科や歯科、皮膚科などへの通院支援も行なっている。	希望のかかりつけ医への受診や協力病院による往診等が行われており、適切な受診支援がなされている。また、訪問看護の看護師により、健康管理や医療面での助言等が行われている。受診時には、職員が同行し、医師と情報交換をし、適切な支援の実践に取り組んでいる。その他にも、受診時の連絡ノートを作成し、職員間で情報や支援方法を共有出来るよう工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、協力病院からの訪問看護がある。介護職員からの質問や対応法の回答、指導を受け、常に適切な健康管理ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院への入院が多い。適宜、面会に行ったり、往診医師・看護師・相談員と連携をとり、状態の把握・早期退院に向けての働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においては、施設の方針を明文化し、説明し、書面で同意を頂いている。重度化した場合には、ご家族・医師・看護師・職員で相談をしながら、施設としてできる限りの支援を行う予定である。意向によっては、他施設や病院への移行も検討している。	終末期・重度化における施設方針を明文化し、説明していると共に、必要に応じて、家族・医師・看護師等と相談をしながら、家族の意向に沿った支援が行えるよう努めている。必要に応じて、必要な情報・対応方法・連絡先をまとめたファイルを作成し、適切且つ円滑な対応が取れるよう工夫している。また、必要に応じて、グループ内の医療機関・他施設とも連携し、意向に沿った終末期を迎えられる様、協力体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの活用と各種の研修、訪問看護師による指導を通じて、実践に活かしている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の参加協力を得て、避難訓練を実施している。毎回、改善点など総評をいただき、繰り返し訓練をする事により、身につくようにしている。	火災報知機・スプリンクラー・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、年2回、消防避難訓練を行っている。訓練では、庭からの避難方法の確認・夜間想定訓練・消火器訓練・消防署立ち会いの訓練等が行われており、様々な状況に対応した避難方法を確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の書類などは、鍵のかかる場所に保管し、個人情報の保護を徹底している。職員全員に対して、接遇マナーの指導、利用者様への言葉使いや対応など、プライバシーを損ねないよう心掛けている。	理念に「個人の尊重」を掲げていると共に、職員に配布している「職員手帳」の中にも入居者の尊厳に配慮する事項を明記している。また、研修も実施しており、職員へ意義の理解を促進している。各居室に大きな収納スペースや鍵を設置している他、必要に応じて、同性介助を実施する等、入居者の尊厳・プライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望に柔軟な対応を心がけ、希望を言い出せない利用者様に対しては、日々の生活の中での表情などの観察や声かけの工夫で汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるものの、お天気のよい日に散歩やドライブに出掛けるなど、状況により柔軟に対応している。利用者様個人のペースで過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、出張理容を実施している。入居者様の希望を聞きながら、カットをしている。また、行きつけの美容院がある方は、ご家族の協力を得て、外食も兼ね、外出される方もいる。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成と食材の納品は配食サービスを利用しているが、週3日の昼食は、買出しによる食材を使用している。また、行事の際は、特別メニューを企画し、食の楽しさを広げている。食事作りでは、可能な方には、皮むきや芽とりをお願いし、食前のテーブル拭きを担当している方もいる。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立においては、食材の配送業者の献立を使用しているが、柔軟にメニューを変更する等、入居者の希望に合わせた食事提供を行っている。定期的に外食会の実施・行事食の提供・菜園の食材の活用等を行い、旬や季節に合わせた食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1人1人の摂取量を把握している。摂取量が少ない場合は、嗜好品や間食、高栄養流動食などで補い、必要な栄養の摂取に努めている。摂取状況に応じて、お粥、キザミ食、ミキサー食の対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。1人で出来る方には声かけをし、出来ない方には歯ブラシにて介助したり、ガーゼを使用するなど個人に応じた口腔ケアの支援をしている。夜間、義歯は預かり、洗浄をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握し、適宜、声かけの実施により、出来るだけ失禁がないように支援している。尿意便意がなくても立位が可能であれば、日中はトイレ誘導をし、立位不可であっても、尿意便意があれば、2人介助にてトイレ誘導をしている。	日々の排泄状況を記録しており、個々の排泄パターンに合わせた声掛けやトイレ誘導にて適切な排泄支援を行っている。トイレでの排泄機会を増やすことにより、オムツ・パットの使用を減らすと共に、排泄の自立に繋げている。必要時には、医師や訪問看護師に相談し、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のリハビリ体操・脚の運動や散歩による運動を心がけている。また、必要に応じて乳製品を提供、便秘予防に乳飲料を個人購入している利用者もいる。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかな入浴の予定表はあるが、利用者様の希望や状況に応じて、時間や回数など柔軟に対応している。脱衣室にはエアコンを設置、浴室には、呼び出しボタンがあり、安全に配慮すると共に、リフト浴にて能力に応じた適切な支援を行っている。	入浴予定を基本に、入居者の希望や体調に応じて、時間や回数等を柔軟に対応していると共に、清拭・部分浴・シャワー浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。また、片側のユニットにリフト浴が設置されており、入居者の身体状況に応じた入浴支援が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一部の利用者様には昼食後に居室で休んで頂いている。夜間、不眠傾向の方には、日中の活動性を高める為に、散歩やレクリエーションへの参加を心がけ、なるべく眠剤に頼らないよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の説明書を個人ファイルに入れて、いつでも職員が確認できるようにしている。確実に服用したかを確認し、記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の希望や能力に応じて、家事や生活活動などを共同で行っている。毎日のリハビリ体操や足の体操、レクリエーションでの数字合わせやカルタなどを行い、運動機能維持・向上に努めている。天気の良い日には、散歩やドライブをしたり、季節によって、プランターの花の植え替えなどを一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の状況により、全員での外出は難しくなっているため、個人個人の希望にそうように、近隣施設の行事の参加や買物など、日常的な外出支援を心掛けている。定期的に外出・外食・外泊をされる方もいる。	日頃から散歩や買物等の外出機会を設けていると共に、庭・菜園を活用しながら、気軽に外の空気を楽しめるよう支援している。定期的に外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを提供している。その他にも、法人内の他施設や地域の他施設との合同行事が実施されており、外部との交流が入居者の楽しみとなっている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様はお財布を所持しており、必要に応じて、職員や家族・友人と買物に行かれる。訪問販売で乳飲料を購入される方もいる。また、入居者様に頼まれて、職員が買出しに行く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をする事は可能である。現在、携帯電話を所持している方もいる。また、ご家族様から電話があり、直接、話される方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで、玄関・廊下・トイレなどゆったりとしたスペースが確保されている。共有スペースには、季節の飾りつけや利用者様の作品などを掲示している。リビングには畳のスペースもある。また、リビングから中庭に出る事が出来る。	バリアフリーの施設内は、十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。リビングにはソファ・テーブル等が設置されており、自由にくつろげる環境となっている。敷地内には、庭や菜園があり、気軽に外の空気が楽しめるような造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブル席の他にソファや畳のコーナーがあり、リビング脇にはウッドデッキもあり、自由に使う事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様には、可能な限り、馴染みの物を持ってきてくださるよう話している。希望に応じて、畳を敷く事も可能である。全居室に、エアコンと換気扇が設置しており、利用者様の写真や作品、ご家族様の写真などを貼っている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、畳の使用・寝具の選択等が可能となっており、入居者の生活歴に配慮した居室作りがなされている。居室担当者を決めており、リネン交換・清掃を適時行い、入居者が安心してくつろげるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などに手すりを設置している。居室の入口に表札をつけたり、利用者様の能力に応じて、大きめの字体にしたり、名前を貼ったりし、自立した生活ができるよう支援している。		